

今月の憂いゴト

浅田彰

photographs by Hiroshi Takaka text by Ken-itaro Matsui

8月10日、金曜日。ここは、国会正門前の交差点。まもなく抗議行動が始まろうという夕刻に、その現場を訪れた田中、浅田両氏。手には、田中氏が参加者に配っている白い風船が。「再稼働反対！」の声は、首相官邸に届くのか？

首相官邸前の抗議行動から、反原連の「対話のテーブル」、汚染地域の集団移住論、草間彌生の憂国談話まで！

田中康夫



憂国果談

season 2 VOLUME 27

**首都圏反原発連合メンバーが
野田首相らと「意見交換」**

浅田 8月の頭に、和歌山県新宮市の「熊野大学」で中上健次の没後20年を記念した夏期特別セミナーが開かれて、講師として呼ばれて行ったんだけど、柄谷行人をはじめとする文学者のほか、『千年の愉楽』を映画化した若松孝二や高良健吾も来て、なかなか面白かった。中上が生きてたら66歳ならで、原発問題についても活発に発言してただろうね。県でいえば三重県だけど、熊野灘の漁師たちは芦浜原発計画を中止に追い込んだこともあるわけだし。

田中 中上と言えば、湾岸戦争のときに「私は日本国家が戦争に加担することに反対します」という反戦声明を一緒に出したの思い出すよ。

当初は「我々は」で始まる文案だったんだけど、それでは今までの運動と同じじゃないかと僕が申し上げて、中上も同意してくれて「私は」になった。誰が誰に対して述べているのかわからない原爆死没者慰霊碑の「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませんねから」と同じで、主語というか意志や責任の所在が明らかじゃないんだ。「我々は」というスローガンは。そもそも物書きは、自分が一番だと思ふ恍惚と不安で生きているんだから、酒場で喧嘩するのと一緒で、意見がまとまるのは至難の業。でも、ある一点ではユニイテッド・インデヴィジュアルズすることができるなら、「私は」を主語にしようと思案した。

その後、阪神・淡路大震災でのボランティア活動や神戸空港建設反対運動を行ううちに「ウルトラ無党派層」の存在の根強さを知ったけど、毎週金曜に行われている首

相官邸前の抗議行動には、そんな言葉をも超えて、普通の人々の「思い」が結集している。市民派とか運動家と呼ばれてきた連中のシニプレヒコル型のデモには違和感を感じていた人たちが、「再稼働反対」という一点で集まっている。組織員型とは無縁の新しいムーブメントだ。抗議行動を呼びかけている「首都圏反原発連合」の一人で、アナスイやナイロンの仕事も手がけたイラストレーターのMisao RedwolfにBS11の「田中康夫のつぼんサイコー！」に出演してもらった。新党日本のHPにもアップしているから見てほしいね。

で、そのメンバーと、菅直人や辻元清美ら「脱原発をめざす国会議員」を自任する面々が7月



31日に「対話のテーブル」を開いたけど、あれは、昔とは「兎頭の友」を自任する小熊英二なる社会学者が企てたガス抜きに過ぎない。「原子力規制委員会の人事案に賛同するのか、しないのか。一人ひとり答えてほしい」と反原発のメンバーから迫られるや、実効性を伴わぬ単なる理念法に過ぎない「脱原発基本法」制定を目指し、次期衆院選に向けて全国会議員にその見解を問いつつと豪語していた菅も含め、民主党の面々はフリーズ状態に陥った。旧大蔵官僚出身で元法務相の平岡秀夫にいたっては、「皆さんが組織代表委任を受けて、組織対組織の代表としてなら首相に会える。それが日本の仕組み」と、時代錯誤な労働組合

幹部のような発言をする始末。OSが古いんだよね。

8月22日にはわずか30分、アリバイ作りのように野田佳彦も面会したけど、本来なら官邸前に自分が出てくるべきでしょ。「決められない政治」を象徴する臆病さだ。反原発側も百歩譲って官邸で会うならば、記者クラブの人間が代表取材する建物の中でなく、前庭に抗議行動の参加者が2000人ほど入って、玄関先で要請ならぬ勧告書を代表者が手渡すとよかった。そそくさと野田が官邸内に戻ろうとしたら、その瞬間に「再稼働反対」と皆で繰り返す。実体を伴った絵になる空撮写真だから全世界に配信される。非暴力の象徴である白い風船と同じ効果が生まれたのにな。

浅田 今回の抗議行動は、乳母車でも車椅子でも参加できる普通の市民の運動だからいいんだよ。そこで、警察と無益な衝突を起ささないように自主規制すると、かつての「過激派」の残党は「警察と結託するのはおかしい」とか言い出すんだけど、じゃあ、首相官邸や国会に突入でもすりゃいいってのか。そういう一時的な暴走は無意味だとわかってるからこそ、今回のような粘り強い運動に意味があるわけだよ。他方、小熊某のバカでかい本は読む気にもならないから田中康夫流に「読まずに批評」(爆笑)すれば、要はかつての「ベ平連」(ベトナムに平和を！市民連合)みたいなのが好きなんですよ。それでここぞとばかりにしゃしゃり出てきて「ボス交」を試みるんだらうけど、そういう「ボス交」こそ運動をダメにするってことがまだわかってないのかな。

政治経済学的に言えば、原発再稼働へと

暴走する資本主義を前に議会制民主主義が機能不全に陥ってる、そこで直接民主主義の形をとって階級闘争を展開してるのが、今回の運動だと言っている。社会学者は、社会全体の革命を目指すイデオロギーや階級闘争なんて古い、部分的な社会工学で少しずつ改革を積み重ねていくのが賢明なやり方だって言うんだけど、それ自体、20世紀半ばにカール・ポパーらがマルクス主義批判のために提示した保守的イデオロギーの反復に過ぎない。哲学から社会学に後退しちゃった東浩紀にしても、だいたいそんな感じでしょう。で、田中康夫や坂本龍一の反原発運動まで批判しつつ、自分はそういうユートピア的なヴィジョンを描くより具体的社会工学でいくって言うんだけど、たとえばマニフェスト選挙なんてのは、そういう社会学のアプローチの限界を示すものだったんじゃないのか。主権者や、それを代表する政治家の示すヴィジョンに従って、細かい具体的手順を考えるのは、官僚の仕事なんだから。

田中 大半の社会学者は非社会学者だったと露呈しちゃった(苦笑)。階級闘争という敵めしい言葉に違和感を持っている人たちも難なく参加できる時空を生み出したのが画期的だし、「再稼働反対」とか「子どもを守れ」といった原発に関わる言葉しか叫ばないという緩やかなルールも効果を発揮している。

PPP参加や非正規雇用といった、阻止したり解決しなければならぬ問題はいろいろあるけど、「再稼働反対」という一点に絞っているのが結果として、間口の広いリアフリーなムーブメントとなって、毎週数万人もが参加する抗議行動になってるんだと思うよ。

浅田 うん、それはそのとおりなんだけど、柄谷行人によれば、労使交渉やストだけが階級闘争じゃない、労働者は同時に消費者でもあるんで、エコロジ運動なりフェミニズム運動なりに参加したりもする、そういう「市民運動」も含めて階級闘争と言うべきだ、とも言えるわけでしょう。むしろ、そこで「プロ市民派」みたいなのが出てきて、小熊某のように「ボス交」を始めちゃうと、本当の市民たちが引いてしまう……。

田中 そういう一部の人たちが官邸前の抗議行動でも幟を掲げているんだよ。実は長野県選出の民主党国会議員で唯一、最初から一貫して僕を支持してくれていた、東大紛争の全共闘行動隊長で、諏訪中央病院の院長を務めた今井澄が2002年9月、県議会の不信任決議に伴う出直し知事選で再選される朝に亡くなって、全共闘議長だった山本義隆がお別れの会で弔辞を読むんだけど、その山本は「君が亡くなった日に、いかなる政治的勢力とも無縁な田中が圧倒的な票数で勝った。本当は君はこういう運動をやりたいか」と述べてたけど、今回の抗議行動でも、全学連のOBだったような人たちは、「そうかあ、こういうやり方もあるんだ」と理解を示しているんだな。むしろ、その下の僕らと同じ世代の中で遅れた古いOSのままの、ごくごく少数な連中が権力vs民衆みたいな二項対立で突撃を唱えて孤立している。

浅田 前衛党が突っ込んでいく戦術ではダメだという場合、広い横のつながりを求める人民戦線戦術が出てくるんだけど、今回はまさにそれだね。

ちなみに、市民運動のイデオログの一人だった久野収がよく言ってたよ、人民戦線がフランスで人気を博した理由は、人民

戦線内閣がヴァカンスを確立したからだ。ストも大事だけど、ヴァカンスも大事だったのが人民戦線なんだね。

田中 そうなんだよ。デモは暴力的にするものではなく、楽しみながらするものなんだよ。実は反原連はデモの申請をしていない。申請すると公安委員会が官邸前では許さないかもしれないから。で、その抗議行動に多数の人々が集まっているから、警察は交通整理に出てきているという構図。

7月29日の国会大包围のときは、参加者が歩道から正門前の道路にあふれ出してカルチェ・ラタン状態になっちゃって、最後は反原連のメンバーが警察のマイクを借りて、「今日はこれで終了」と伝えると、参加者は牧歌的というか、帰り支度を始めるんだよ。警察のマイクを借りたことを甘いと怒る人もいるけど、メンバーの意識は自分らのトラメガよりも高性能で大音量な警察の装備を拝借しただけ。おまけに、7月上旬の官邸前では借りたマイクで「では最後にもう一度、再稼働反対！」って言っちゃって、私服の警官とか目を白黒させてた

田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。
長野県知事、参議院議員を経て、現在、衆議院議員・新党日本代表。



(笑)。そんな二項対立じゃない雰囲気、この抗議行動の画期性があると感じるよ。あそこで警備に当たっている警察官のなかにも、福島の前線地で自衛隊員と一緒に遺体を捜索した人もいるわけ。だから、なし崩しの再稼働はおかしいと思ってるんだよ。誰の責任で、いつ、どこで再稼働を決めたのか、不信感を募らせている。セー

フティ・コインを路肩に寄せながら「再稼働反対」とつぶやいているのはその表れで、警察官も人間。つまり、この抗議行動はすべての国民を体温を持った「人間」に戻す運動なんだ。

関西の電力使用量は85%をほとんど下回っている

浅田 東京電力が震災直後のテレビ会議の様子を部分的に公開したけど、全体からするとごく一部、しかも肝心の部分で音声になかったりする。だいたい、公開たってマス・メディア関係者に視聴を許すものの録画・録音は許さないってんだからね。これでは国民の猜疑心を煽り立てるばかり。

訴訟に備えて弱みを見せないという弁護士的判断だけで動いてるとしか思えない。さらに言えば、脱原発を難しくしてるのは、莫大な資金を投じてきた原発を不良資産にするわけにはいかないという資本の論理でしょう。言い換えれば、本当に脱原発を望むなら、東京電力に限らず、すべての原発と関連施設は国有化したほうがいい。そうすれば電力会社も身軽になって再生エネルギーを含めた新しい事業に前向きに取り組める。もちろん、東電はいちど破綻処理して、貸し手や株主にも責任を負わせるし、原発事故に関する刑事・民事の責任は徹底追及する必要があるけどな。

前にも言ったけど、民主党は党利党略で動けばよかったんだよ。原発依存体制は自民党政権がつくってきたものなんで、それに対して民主党が脱原発をもっと鮮明に打ち出せば選挙に勝てたんだから。関西電力大飯原発の強引な再稼働の前だって、関西では電気が足りない、足りないといいたが、関西電力管内の電力使用量が供給量の85%を上回る日はほとんどなかったんだよ。

田中 3・11から1年半が経とうとするのに、いまだに埼玉県加須市の廃校になった校舎で避難生活を送っておられる双葉町の高齢者がいるなんて、考えられないよ。今までは南相馬市の仮設住宅で整体ボランティアを行ってきたけど、こちらに今度はうかがおうと思ってる。「本当は、やっぱり住んじやいけないんだよ」という声を、皆で上げてほしい。こんなことを言う首長は全国で私一人かも知れないが、福島の子どもたちを「虐待」したくない」と切々と訴える井戸川克隆町長とも話したけど、被曝させることを望んでいるとしか思えない政府や御用学者には怒りを感じるよ。20キロ圏

誰の責任で、いつ、どこで再稼働を決めたのか。この抗議行動はすべての国民を体温を持った「人間」に戻す運動なんだ。(田中)



内は「もう帰れない」と政府は宣告すべきなんだ。

浅田 明治時代に奈良県の十津川村が大洪水の被害に遭ったとき、村民の約2500人が北海道へ集団移住した。その新十津川村と「母村」である十津川村のあいだにはいまだに絆があって、昨年の台風12号で十津川村が洪水の被害を受けたときには北海道から支援に來たりもしている。「いつか帰れるかもしれない」という空しい期待を抱かせるよりは、人生をやり直せる住まいと仕事を用意して移住してもらおうのほうがいいんじゃないかな。

田中 人口約6000人の飯館村で、除染費用に3200億円も投じている。村民1人あたりに約5000万円かかるわけ。しかも、それで完璧に除染できる保証もない。放射能は煮ても焼いても流しても消えないんだから、単なる「移染」ではない。しかも、請け負っているのは原発建設に携わったゼネコンや電力会社の系列会社というブラックユーモア。

だったら、そのお金を一人ひとりの将来の人生設計に使ったほうが有意義だ。日本人は農耕民族だから、先祖から受け継いだ土地を手放すのはつらいかもしれないけど、政治家は狩猟採集民族でなければダメ。未来の糧を狩りに行かないと。しかも農耕民族でいたい政治家が地域の文化や伝統を守る保守に徹するならともかく、増税だ、PPPだど地域の文化や伝統を踏みじり、さらには、PPPの根幹とも言えるACFTA（偽造品の取引の防止に関する協定）ではネットでの言論の自由も奪おうとしているんだから呆れちゃう。有権者の半数が選挙に行かず、特定支持政党もない時代に、いまだに箱型の後援会名簿とか、連合や経団

前衛党の戦術ではダメだという場合、広い横のつながりを求める人民戦線戦術が出てくるんだけど、まさにそれだね。(浅田)

連といった組織化率が低いところが票だという発想しかないんだもの。

ジャンルを超えて「脱原発」 草間彌生も官邸前へ?

浅田 ところで、中沢新一が協力してる「緑の党」って、どうなの?

田中 母体となってるのは70人ほどの地方議員でつくる「みどりの未来」という団体で、そこから参議院議員を出そうとして。今度の衆議院選挙でも共闘してくれる議員を探してるみたいだけど、どうだろうね。浅田 他方、落選はしたものの、飯田哲也が保守王国山口の県知事選挙で18万票を取る善戦を見たのは、大したものだね。

田中 18万票は確かに驚異だ。ただ、電力総連とは水と油の自治労が応援してたからね。仮に知事になったとしても公務員改革は難しかっただろうね。

浅田 他方、文化人の動きもますます広がりを見せてる。7月には坂本龍一が反原発に賛同するミュージシャンに呼びかけて「NO NUKES 2012」というライブを開催、



浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学大学院長。83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。



テクノ・ミュージックの元祖で、「放射能」って曲を反核キャンペーンに転用してきたKRAFTWERKとYellow Magic Orchestraが同じステージに立つっていう歴史的なシーンもあった。坂本龍一は「さようなら原発10万人集会」で「たかが電気」って言うて物議を醸したけど、確かに政治家の言える言葉じゃないにせよ、アーティストなんだからそれくらい過激なことを言ったっていいんだよ。曾野綾子は「坂本」氏の音楽が大衆の耳に届くのは、エレキバンドを通してではないのか」なんて言っていて、加山「エレキの若大将」雄三と間違えてるんじゃないかと思うけど(苦笑)、先端的なテクノ・ミュージックをやってるからこそそういう問題に敏感になって当然だってことがわからないのかな。KRAFTWERKだって核をアイロニカルに賛美するとも見える「放射能」を反核に転用するからエッジが立つんでさ。

個人的には、草間彌生の発言も忘れがたい。やはり7月に、銀座の「DOVER STREET MARKET (ロム・デ・ギャルソン)」で草間彌生によるルイ・ヴィトンの新作シリーズのお披露目があったとき、1階のウィンドーで赤い水玉を貼り付けていくパフォーマンスを終えた彼女と短い対談をしたんだけど(ルイ・ヴィトンのつくった本のためにインタヴューした流れ)、これがもう大変(笑)。なぜか英語でのやりとりから始まって、なんとか日本語に誘導したものの、途中からアジ演説調になり、「ヒロシマ、ナガサキのあとにまたフクシマなんて、日本はどうなってるんでしょうか。軍国主義の頃から何も変わってない。ここだけの話(って草間さん、プレスだからですよ?)、私は昭和天皇には死んでほしかったんです。そう思いませんか?」って(笑)。原発事故でも責任をあいまいにしたまま崩壊して元に戻そうとしてる、その原因はそもそも戦争責任をあいまいにしたことにあるって話なら、まったく正しいと思うよ。で、「私はそういう醜いものと戦って、戦って、戦って、死んでも——いや死んでもからも戦って、アートの愛と平和を広げていきたいと思えます。皆さん、一緒に戦ってくださいますか?」という彼女の言葉に会場は大喝采。今度、彼女の車椅子を押して首相官邸前デモに行くといいかも(笑)。

田中 いずれにせよ、「今回の原発の関係者、誰もケツ拭かない。ケツを拭かない国家に明日があると思えますか?」と「ローリングストーン」誌のインタヴューで矢沢永吉が述べ、「命の音が聞こえない……止めてくれ原発を止めてくれ今すぐ」と長瀬剛が「フクイチ」20キロ圏内の惨状を歌った「カモメ」をコンサートで披露する、そうした日本になっているのに、民自公3党の翼賛体制は「決められない政治」を続けているんだ。